

授業科目 疫学

【担当教員】		対象学年	2	対象学科	看護
遠藤 和男（第14回のみ助手またはATが応援）		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：GI0】 <概要> 公衆看護学またその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。 それに対して前期で学んだ統計学は、ある意味で道具である。この両者によって現在医療の現場で重視されている、EBM (Evidence-based Medicine) の基礎について修得が可能なのである。 <一般目標：GI0> 証拠に基づいた医療であるEBM (Evidence-based Medicine) を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	記述疫学の方法論1：特に感染症について学ぶ。			1	講義主体
2	感染症の疫学1：感染症の疫学について小グループで調べる。			1, 2	小グループ活動
3	感染症の疫学2：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
4	記述疫学の方法論2：特に職業病について学ぶ。			1	講義主体
5	職業病の疫学1：職業病の疫学について小グループで調べる。			1, 2	小グループ活動
6	職業病の疫学2：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
7	分析疫学の方法論1：特に公害病について学ぶ			1	講義主体
8	公害病の疫学1：公害病のについて小グループで調べる。			1, 2	小グループ活動
9	公害病の疫学2：小グループでの発表。			1-5	小グループ活動
10	分析疫学の方法論2：特に生活習慣病について学ぶ			1	講義主体
11	生活習慣病の疫学1：生活習慣病について小グループ調べる			1, 2	小グループ活動
12	生活習慣病の疫学1：生活習慣病の疫学の特徴を学び、小グループで調べる。			1-5	小グループ活動
13	分析疫学の方法論3：主として生命表理論について学ぶ。			1	講義主体
14	生命表理論に基づいた演習			1-5	個人の演習（助手またはATの応援）
15	まとめ（レポートの書き方指導）			1-5	講義とレポート作成
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	はじめて学ぶやさしい疫学		田中平三、能勢隆之編	南江堂	2005・1,800円＋税
	保健統計テキスト〔3年次にも使用〕		遠藤和男	考古堂	2008・2,800円＋税
参考書	総合衛生公衆衛生学上・下巻			南江堂	1985・53,000円・購入の必要なし、遠藤が持参する。
その他の資料	ほかの関連図書も遠藤が持参する。 関連するURLは学内LANにアップしておく。				
【評価方法】		【履修上の留意点】			
数回のグループ発表と出席状況により評価するが、発表のうまいグループの全員にボーナス点を与える可能性がある。 最後にレポートを提出してもらう。		・6人位の小グループに分けて演習を主体とする。 ・グループ分けについては第1回目に発表する。			